

病害虫発生予察情報

- 1 令和 8 年度 病害虫発生予察 予報第 1 号 (4 月)
- 2 気象情報 九州北部地方 1 か月予報 (福岡管区气象台)
 气象台メモ (大分地方气象台)

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

◎予報内容の概況

作物	病害虫名	発生面積		発生量		ページ数
		平年比	前年比	平年比	前年比	
麦類	赤かび病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.2
	うどんこ病	平年並	前年並	平年並	前年並	-
	網斑病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.2
温州ミカン	黄斑病	平年並	前年並	平年並	前年並	-
	そうか病	やや多い	多い	平年並	やや多い	P.3
カボス	ミカンハダニ	やや多い	多い	平年並	多い	P.3
	かいよう病	やや少ない	少ない	少ない	少ない	P.4
	そうか病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.4
白ネギ (平坦地)	ミカンハダニ	平年並	やや多い	やや少ない	前年並	P.5
	さび病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.5
	べと病	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	P.6
イチゴ	ネギアザミウマ	多	多い	やや多い	多	P.7
	灰色かび病	平年並	少ない	やや少ない	多い	P.8
	うどんこ病	やや多い	多い	やや多い	多い	P.9
	ハダニ類	平年並	前年並	平年並	多い	P.10
	アザミウマ類	やや多い	多い	やや多い	多	P.11

◎注意事項 上記一覧表病害虫のゴシック体のみ以下に個別の記述をしています。

- ◎特記事項 令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 7 号 (イチゴ うどんこ病) : 令和 8 年 2 月 2 日
 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 10 号 (ネギ類 ネギアザミウマ) : 令和 8 年 2 月 18 日
 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 11 号 (イチゴ アザミウマ類) : 令和 8 年 2 月 25 日
 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 12 号 (麦類 赤かび病) : 令和 8 年 3 月 18 日

麦類

1 赤かび病（令和8年3月18日 病害虫防除技術情報 第12号発表）

（1）予報内容

発生時期：やや早い

発生面積：平年並

発生量：平年並

（2）予報根拠

ア 農林水産研究指導センター水田農業グループの3月4日時点での生育調査結果概況によれば、主な品種の出穂期は、ニシノホシ（二条大麦）が3月19日（平年3月31日）、チクゴイズミ（小麦）が3月26日（平年4月4日）と予測されている。最新の情報は水田農業グループHP (<https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/>) を参照する。

イ 本病は出穂～乳熟初期の曇雨天及び高温で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 出穂時期に注意し、防除適期を失しないようにする。

イ 裸麦および小麦では、開花最盛期から10日後までが最も感染しやすい。そのため、開花最盛期とその7～10日後に2回薬剤散布を行う。なお、開花最盛期は、裸麦で出穂5～7日後、小麦で同7～10日後である。

ウ 二条大麦では、葯殻抽出期（葯の出始め）にあたる穂揃い約10日後（出穂12～14日後）に最も感染しやすいため、この時期とその7日後の2回薬剤散布を行う。

エ 開花最盛期や穂揃い期の判別は困難なため、出穂期（全茎の40～50%が出穂した時期）を把握し、防除計画を立てる。

2 オオムギ網斑病

（1）予報内容

発生時期：平年並

発生面積：平年並

発生量：平年並

（2）予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病度ともに平年より低かった。

発生圃場率：8.3%（平年：13.9% 前年：0%）

平均発病度：0.1（平年：0.4 前年：0.1）

イ 本病は多雨で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 初め下葉に病斑を生じ、出穂後急激に上位葉に進展する。この時期に降雨が続くと多発し、葉が枯れ上がることもある。

イ 赤かび病との同時防除にはFRACコード「3」（テブコナゾール水和剤、メトコナゾール水和剤、プロピコナゾール乳剤）を用いる。

カンキツ（温州ミカン）

1 そうか病

（1）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：平年並

（2）予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病葉率は平年より高く、平均発病度は平年並だった。

（越冬病斑）発生圃場率：20.0%（平年 4.4%、前年 10.0%）

平均発病葉率：1.4%（平年 0.8%、前年 0.9%）

平均発病度：0.3（平年 0.3、前年 0.2）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる葉や枝の越冬病斑除去を徹底する。

イ 常発園では、防除適期を逸しないよう注意して発芽期防除を必ず行う。

2 ミカンハダニ

（1）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：平年並

（2）予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高く、平均寄生葉率は平年より低かった。

発生圃場率：50.0%（平年 35.9%、前年 20.0%）

平均寄生葉率：3.7%（平年 6.7%、前年 0.7%）

イ 本虫は高温乾燥により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、少ない確率20%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 4月以降の密度上昇を抑えるため、低密度のうちに抵抗性の心配のないマシン油乳剤で防除を行う。

カンキツ（カボス）

1 かいよう病

（1）予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：少ない

（2）予報根拠

ア 3月上中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病葉率、平均発病度は平年より低かった。

（越冬病斑）発生圃場率：0 %（平年 16.2%、前年 11.1%）

平均発病葉率：0.4%（平年 2.1%、前年 1.0%）

平均発病度：0.1（平年 0.6、前年 0.2）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる葉や枝の越冬病斑除去を徹底する。

イ 園では、発芽前、展葉期の防除を必ず実施する。

2 そうか病

（1）予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

（2）予報根拠

ア 3月上中旬の巡回調査では、1圃場で微発生が認められた。発生圃場率、平均発病度、平均発病葉率ともに平年並であった。

（越冬病斑）発生圃場率：0 %（平年 0 %、前年 0 %）

平均発病葉率：0.4%（平年 0.0%、前年 0.2%）

平均発病度：0.1（平年 0.0、前年 0.0）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる葉や枝の越冬病斑除去を徹底する。

イ 常発園では、防除適期を逸しないよう注意して発芽期防除を必ず行う。

3 ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 3月上中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生葉率は平年より低かった。

発生圃場率：11.1%（平年 26.5%、前年 0%）

平均寄生葉率：0.2%（平年 4.4%、前年 0%）

イ 本虫は高温乾燥により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 10%、高い確率 80%、降水量は、少ない確率 20%、平年並 40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 4月以降の密度上昇を抑えるため、低密度のうちに抵抗性の心配のないマシン油乳剤で防除を行う。

白ネギ（平坦地）

1 さび病

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生は確認されず、発生圃場率、平均発病度ともに平年より低かった。

発生圃場率：0%（平年：2.5%、前年：0%）

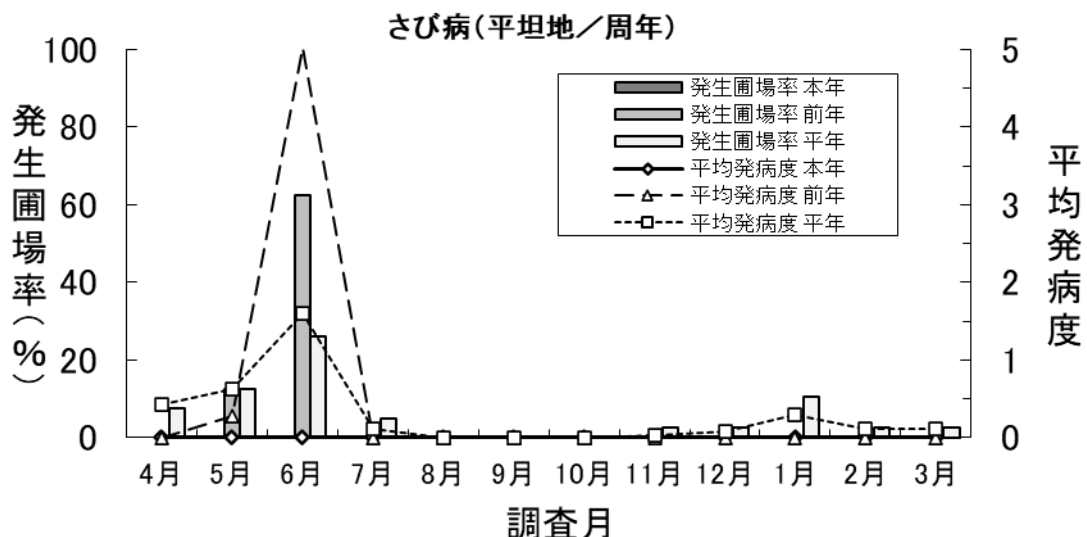
平均発病度：0（平年：0.1、前年：0）

イ 本病は気温 15～20℃で湿度が高い場合に発病しやすいが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 10%、高い確率 80%、降水量は、平年並 40%、多い確率 40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると防除が困難になるので、薬剤防除は予防散布や初期散布に重点を置く。

イ 既に発生している圃場では治療効果の高い薬剤を散布する。



2 ベと病

(1) 予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生は確認されず、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より低かった。

発生圃場率：0%（平年：13.8%、前年：0%）

平均発病株率：0%（平年：4.2%、前年：0%）

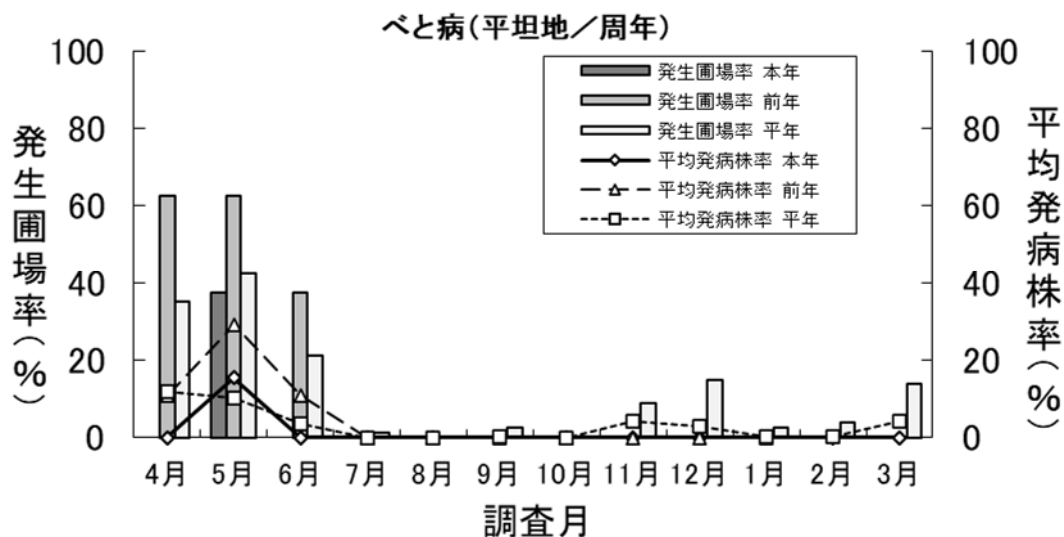
イ 本病は気温13～20℃、多雨条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は効果が劣るため、気象情報を参考に発病前から防除を行う。

イ 薬剤散布は曇雨天時や朝夕を避け、できるだけ晴天時の日中に行う。

ウ 同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。



3 ネギアザミウマ（令和8年2月18日 病害虫防除技術情報 第10号発表）

(1) 予報内容

発生面積：多い

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった。

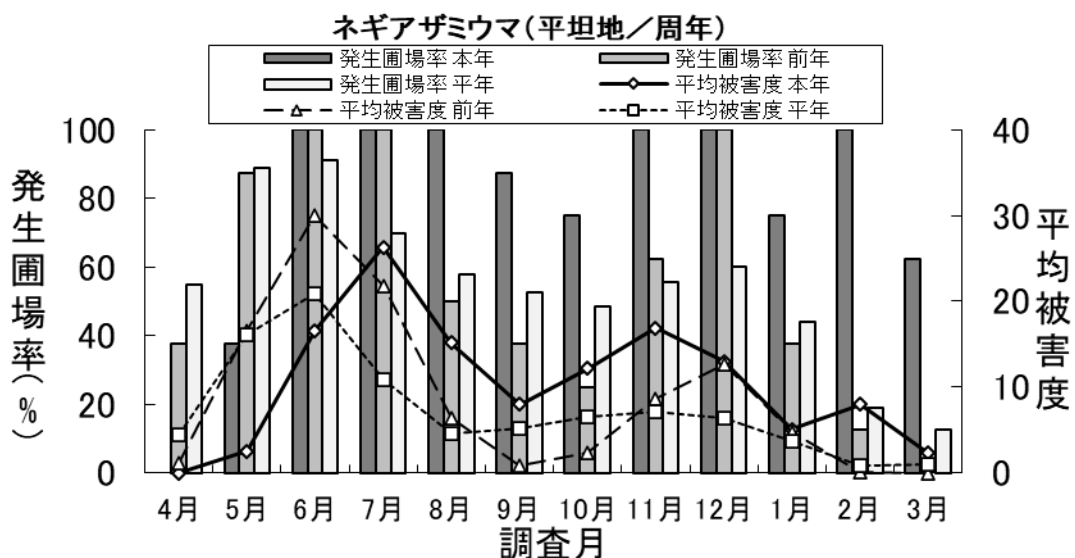
発生圃場率：62.5%（平年：12.5%、前年：0%）

平均被害度：2.3（平年：0.9、前年：0）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、少ない確率20%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、防除を行う。



イチゴ

1 灰色かび病

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率および平均発病葉率は平年より低く、平均発病果率は平年より高かった。

発生圃場率：10.0%（平年：40.0%、前年：20.0%）

平均発病株率：0.4%（平年：5.9%、前年：2.0%）

平均発病葉率：0.1%（平年：1.3%、前年：0.4%）

平均発病果率：0.7%（平年：0.2%、前年：0.2%）

※発生圃場率は平均発病葉率（平均発病果率は考慮していない）から算出。

イ 本病は多湿条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

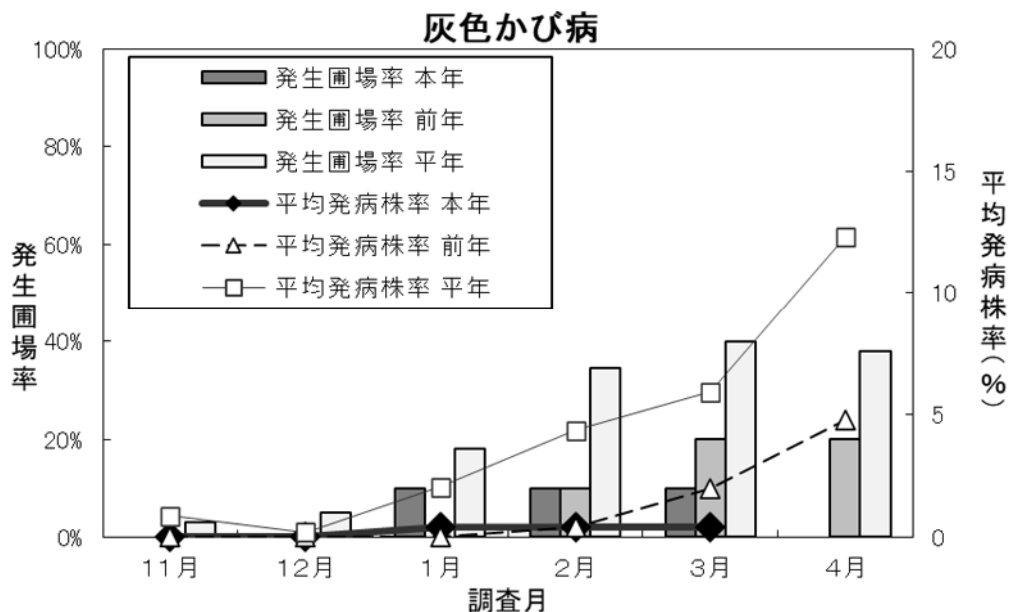
(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウス内の菌密度が高いほど発病しやすくなるので、発病果や発病葉は見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に埋める等の処分を行って孢子の飛散を抑える。また、換気等に注意し、ハウス内の過湿防止に努める。

イ 曇雨天時の防除については水和剤等の使用を控え、くん煙剤等を使用すると過湿防止に有効であるとともに省力的である。

ウ 各種薬剤に対する耐性菌の発生が認められているため、同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。

エ 感受性検定の結果、FRACコード「11」（アゾキシストロビン剤及びピラクロストロビン剤）、FRACコード「9」（メパニピリム剤）は耐性菌率が高いため、少発生時の防除、予防目的での使用にとどめる。



2 うどんこ病（令和8年2月2日 病害虫発生予察注意報 第7号発表）

（1）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

（2）予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率、平均発病葉率および平均発病果率は平年より高かった。

発生圃場率：40.0%（平年：10.0%、前年：20.0%）

平均発病株率：2.0%（平年：1.1%、前年：0.8%）

平均発病葉率：0.5%（平年：0.2%、前年：0.2%）

平均発病果率：0.3%（平年：0.1%、前年：0.1%）

※発生圃場率は平均発病葉率（平均発病果率は考慮していない）から算出。

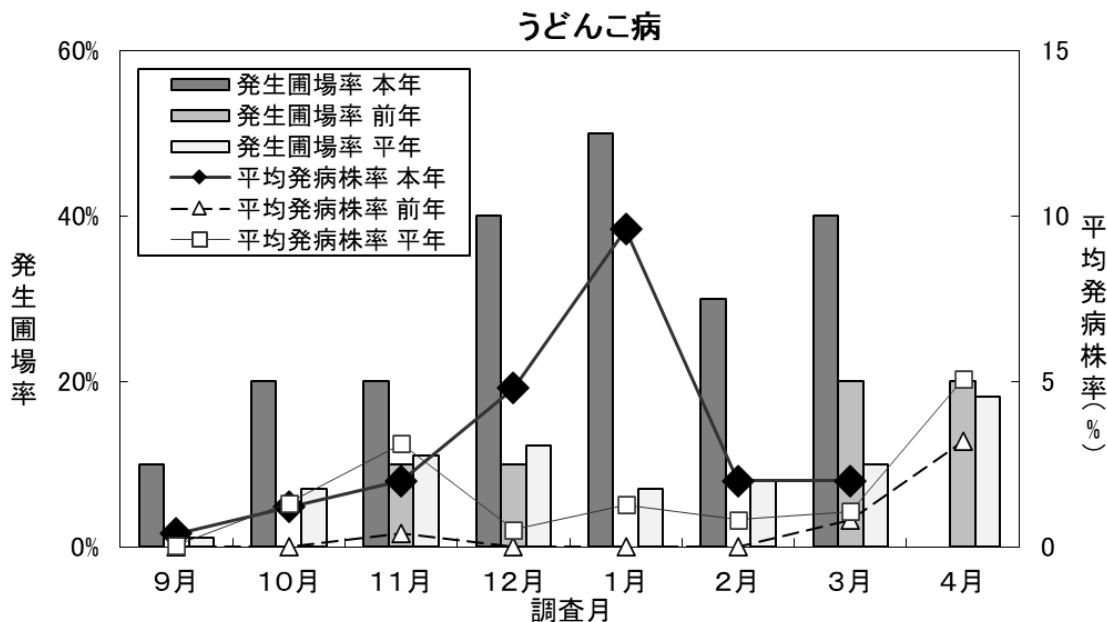
イ 本病は、気温20℃程度が最も発生しやすいが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 初め葉裏に発生しやすいので注意し、早期発見に努める。

イ 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間を短くするなどして集中的に散布する。

ウ FRACコード「3」（EBI剤）やFRACコード「11」（ストロビルリン系薬剤）は連用すると耐性菌を生じやすいので、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。



3 ハダニ類

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低く、平均寄生株率は平年並であった。

発生圃場率：20.0%（平年：28.0%、前年：20.0%）

平均寄生株率：10.4%（平年：11.0%、前年：12.2%）

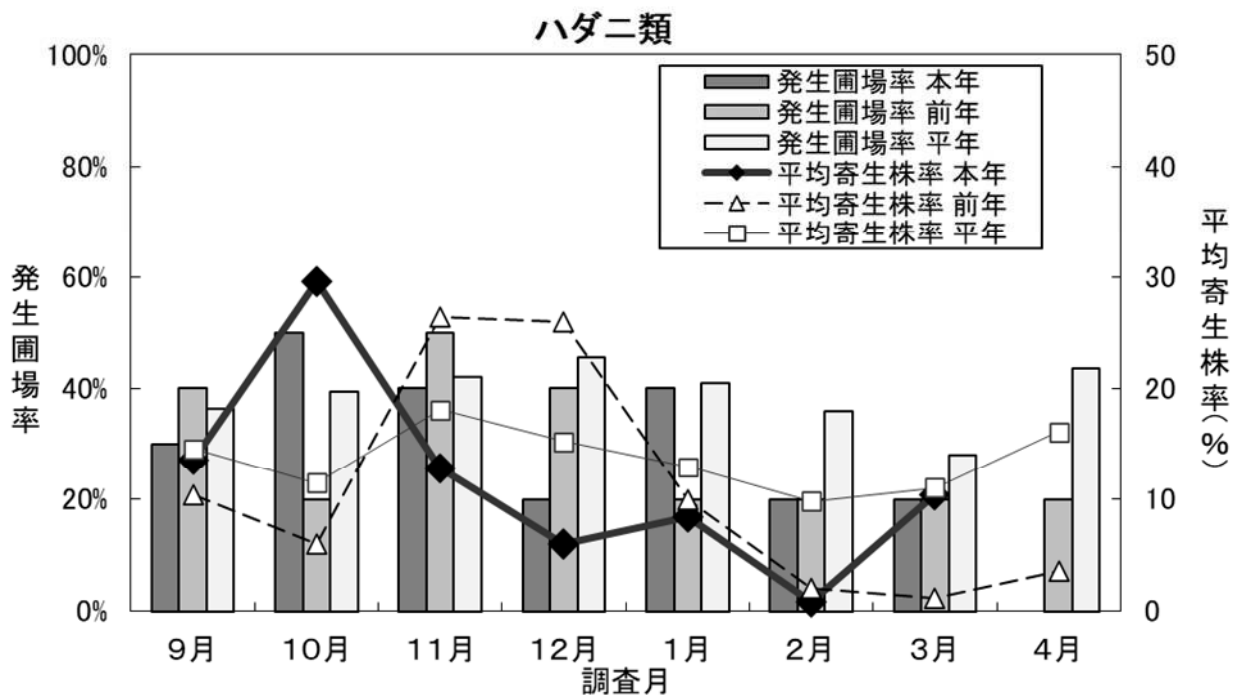
イ 本虫は高温条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、葉裏を中心に防除を行う。

イ 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵（カブリダニ類）を利用する。

ウ 2回目以降の天敵放飼は、ハダニ類が確認できない場合でも予防的に実施する。



4 アザミウマ類 (令和8年2月25日 病虫害防除技術情報 第11号発表)

(1) 予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生花率ともに平年より高かった。

発生圃場率：40.0% (平年：28.0%、前年：20.0%)

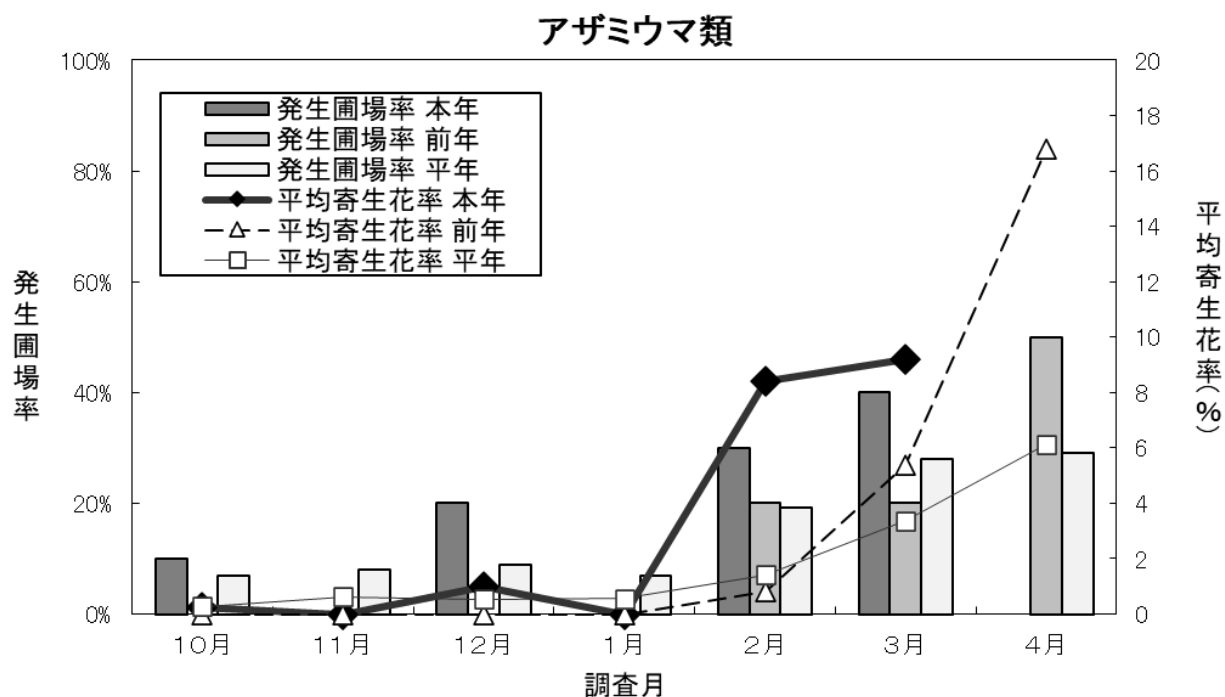
平均寄生花率：8.6% (平年：3.4%、前年：5.6%)

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、少ない確率20%、平年並40%と予想されている(気象情報参照)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 4月以降は施設外からの飛び込みが増加するので、換気扇吸気口側およびハウスサイドを中心に花を良く観察し、早期発見に努める。

イ 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、低密度からの防除を行う。



※ 薬剤の詳細は大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針、又は各地区防除暦を参照する

気象台メモ

大分地方気象台

◎ 九州北部地方（山口県を含む）1か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和8年3月19日（毎週木曜日に発表）
- ・予報期間：令和8年3月21日～令和8年4月20日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みですが、これまでの少雨の影響が残る可能性があります。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は、高い確率80%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率70%です。

【向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）】

要素	予報対象地域	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	九州北部地方（山口県を含む）	10	10	80
降水量	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40
日照時間	九州北部地方（山口県を含む）	50	30	20

◎ 九州北部地方（山口県を含む）3か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和8年3月24日
- ・予報期間：令和8年4月～令和8年6月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

4月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。

6月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。

【向こう3か月の気温、降水量の各階級】

- | | | |
|-----|-------|------------|
| 3か月 | 気温：高い | 降水量：平年並か高い |
| 4月 | 気温：高い | 降水量：平年並か多い |
| 5月 | 気温：高い | 降水量：ほぼ平年並 |
| 6月 | 気温：高い | 降水量：ほぼ平年並 |

【向こう3か月の気温の各階級の確率（%）】

気温	予報対象地域	低い	平年並	高い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	10	20	70
4月	九州北部地方（山口県を含む）	10	20	70
5月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
6月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60

【向こう3か月の降水量の各階級の確率（%）】

降水量	予報対象地域	少ない	平年並	多い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40
4月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40
5月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40
6月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40

◎ 最近1か月の天候経過（令和8年2月下旬から令和8年3月中旬の天候）

2月下旬（高温）

天気は、前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、後半は低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、平年より多いか、かなり多かった。日照時間は、日田で平年並、他は平年より少なかった。

※大分市の旬平均気温は12.3℃で平年よりかなり高かった。旬降水量は53.0ミリで平年よりかなり多かった。旬日照時間は38.6時間で平年より少なかった。

3月上旬

天気は、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年並だった。降水量は、平年並か、平年より多かった。日照時間は、平年並だった。

3日は蒲江で「日最大風速」の3月の1位の値を更新した

※大分市の旬平均気温は9.3℃で平年並だった。旬降水量は44.0ミリで平年より多かった。旬日照時間は56.4時間で平年並だった。

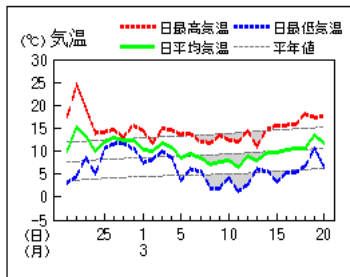
3月中旬（多照）

天気は、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年並か、平年より低かった。降水量は、豊後高田、椿ヶ鼻で平年並、他は平年より少ないか、かなり少なかった。日照時間は、宇目で平年より多く、他はかなり多かった（多照）。

※大分市の旬平均気温は10.0℃で平年並だった。旬降水量は2.5ミリで平年よりかなり少なかった。旬日照時間は82.7時間で平年よりかなり多かった。

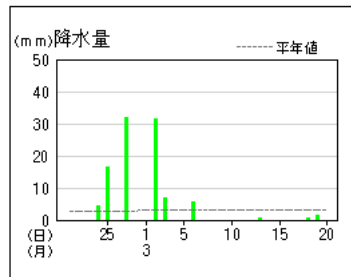
地上気象 気象経過図：2026年02月21日～2026年03月20日

大分



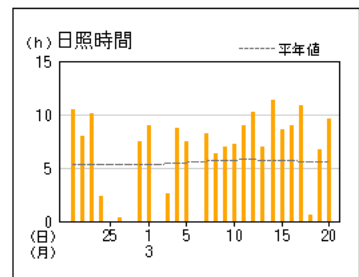
地上気象 気象経過図：2026年02月21日～2026年03月20日

大分



地上気象 気象経過図：2026年02月21日～2026年03月20日

大分



地上気象 気象経過図：2026年2月21日～2026年3月20日

適正防除はホームページで!!

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

または

病虫害対策チーム

検索



【病虫害発生予察情報作成機関】

農業研究部

病虫害対策チーム

葉根菜類・茶業チーム

果樹グループ

花きグループ

地域農業振興課

安全農業班

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部 病虫害対策チーム

〒879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8

Tel. 0974-28-2078

Fax. 0974-22-0940

大分県農林水産部地域農業振興課 安全農業班

〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

Tel. 097-506-3661

農薬は正しく安全に使いましょう!!